

【今回のテーマ】

『私が見つけたアップサイクル』の宿題の中で、たくさん発見や取り組みがありました。未来新聞にいくつか紹介したいと思います。



さんが見つけた
アップサイクル

ビール粕 → クッキー生地



タイトル 未来にアップサイクル 3年3組 19番 氏名 [redacted]

アップサイクルってなに？
アップサイクルは、本来は捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生することです。
デザインやアイデアによって付加価値が与えられることにより、ものとしての寿命が長くなることも期待できます。
アップサイクルとリサイクルの違い
廃棄されるものを再利用するという点はアップサイクルもリサイクルも同じです。
しかし、アップサイクルは原料や材料に戻すのではなく、元の製品の素材をそのまま生かすという特徴があります。
世界で行われているアップサイクル
アメリカ・サンフランシスコ発のクッキー専門店「Doughp」ではビールの醸造工程で生まれたビール粕をアップサイクルしたパンダを使い、クッキー生地にして販売しているそうです。
環境に優しいだけでなく、小麦粉どころクッキー生地より糖質が低く、食物繊維が6倍も豊富だといわれています。
アップサイクルについて知って初めて聞いた「アップサイクル」について調べてみて、リサイクルゼリデュースなどとは違う良さがあるんだなと気づきました。
地球環境の問題を大きなこととしてとらえるのではなく、身近で小さなことから取り組んでいきたいなと思いました。

DOUGHP

クッキードウとは、オープンで焼く前のクッキー生地。いわば生菓子の様なスイーツです。

代表を務める Kelsey Moreira さんは会社を設立する以前、重いアルコール依存症に悩まされていた。断酒のきっかけにと始めた菓子づくりに次第に没頭し、2015年には病気を克服。「依存症に悩まされている人を救いたい」と思い、2017年に勤めていた会社を退職し、「Doughp」の立ち上げに至る。売り上げの一部は、依存症治療をしている女性をサポートする「SHE RECOVERS Foundation」と環境保護団体「1% for the Planet」に寄付されている。
(クッキードウさんHPより)



日本人にとってはなじみがないスイーツですが、いまや全米各地に専門店が出店するなど一大ブームになっています。
日本でも流行の波がくるかも!?

さんが見つけた
アップサイクル

廃棄バナナ → お菓子



廃棄される予定だった食材に付加価値つけたお菓子を選ぶことで、フードロス削減を通してサステナブルに貢献できます。

さらにこの商品は、すべてオーガニックなバナナを使用しているとのこと。安心安全はもちろん、自然環境を保護する農法で作られているため、そういった商品を選ぶこともサステナブルな世界の実現へ繋がりますね!



他の国のアップサイクル

2年1組 23番

初めにアップサイクルとは... 捨られるはずのものに新しい価値を与え元の状態より価値を高めること。
私は、世界のアップサイクルを調べました!!
最初はアメリカです。アメリカでは、なんと、400以上のアップサイクル食品が商品化、販売されています。
その中の商品の一つを紹介し、

「Dipped BANANA BITES」という、チューイングチョコレートのような商品です。この商品は、中南米産のバナナを取り扱っており、傷がついたり、変形していたり、熟しすぎて、流通時に廃棄される予定であったバナナを使用して商品を作っています!! オレンジのブランド「ア・ウェイスト・エピファニー」は、建設現場で出るレンガやコンクリートの廃材を、花병、プランター、ブックストップ、小型テーブルなどにアップサイクル。複数の種類のレンガを使用することで、ひとつひとつに色合いが異なるデザインが生まれている。
ロンドンと東京を拠点とする、サーキュラーデザインブランド「Anti」では、大量に生産され、わずかな期間で廃棄されるプラスチック製のデスクランパーテーブルラングにアップサイクルしている!!



絵で、本がはん



廃材 → インテリア小物



これまではごみとして扱われていたコンクリートがれきに、作品としての新たな可能性をもたらす点で、注目を集めている。

「Waste」は「廃棄物」、「Epiphany」は「本質」の意味であり、「ア・ウェイスト・エピファニー (A Waste Epiphany)」は、本質的により意味のあるリサイクル方法といえるのではないのでしょうか。

廃棄傘 → 三脚



サーキュラーデザインブランド「Anti」は、廃棄された製品に新たな命を吹き込むことを使命としている。傘は年間約10億本もの傘が生産されているにもかかわらず、それらは6ヶ月以上使用できるように設計されておらず、使用後は埋め立てや焼却処分されていることが多い。

デザイナーのマークさんは「私は常々、ごみに対する認識を変える必要があると考えています。ごみをもととの役割や使い古したのものとしてではなく、素材の種類や形で捉えることができれば、新しい役割を担うことができます。」と言っています。

(AntiさんHPより)



役目が終わったものを捨てる前に、立ち止まって他の活用方法を考える。
それだけで世の中のごみは減らせるのかもしれないですね。